北陸中日新聞 2018 年 2 月 21 日付

発言

金沢市の「第一学院高等学校金沢キャンパス」で学ぶ生徒のうち六人の皆さんから、学校生活や将来の夢などについてさまざまな思いを寄せていただきました。

学校生活や将来の夢

第一学院高等学校金沢キャンパス

家族のおかげ いつか恩返し

1年 亀田 サラ

私の将来の夢は、正直に言うとまだ決まっていません。今の私には、まずは将来のことよりも、今の学校生活をできるだけ楽しみ、毎日きちんと登校できるようにすることが大切だと思っています。

勉強も自分のペースでやって、テストもできるだけ良い点を取れるように、無理をせずに、これからゆっくりと頑張っていけたらいいなと思っています。

第一学院高等学校には、泊まり込みで兵庫県養父市にスクーリングというものに行くのですが、そのスクーリングでも友達が増えました。うれしいことが増えています。

今、私が第一学院高に通えているのは、家族のおかげです。家族の協力があったからこそ、何とか今、頑張って学校生活を続けています。

ずっと家族に感謝の気持ちを込めて、いつか恩返しがしたいなと思っています。こんな私だけど、これからも支えてくれたらうれしいなと感じています。

心を強くして へこたれない

1年 湊 朱里

私には今、身の回りにたくさんの人がいます。家族や友人、知人、そして近所の人など。多くの人たちに囲まれて過ごしています。

しかし、私は小さいころから人見知りをよくしていました。人と接するのが得意ではありませんでした。初対面の人には、とくに人見知りが激しかったそうです。人と接するのが苦手なので、小学生のころから、よく周りからイジられたりして、しかもそれが少しずつエスカレートしていき、嫌な思いやつらいこともたくさん経験しました。人間関係では、そういうパターンの繰り返しでした。

でもそのことを振り返り、私はそれをきっかけにして、もっと自分が強く、大きくなればよいなと感じています。多少のことでは「ヘコタレナイ人間」になりたいです。

大人になったら、もっとたくさんの人と接していかなければなりません。いちいち泣いたり落ちこんだりしてはいられません。

これからもっと人との接し方を学び、そして心が強く優しい人間になっていきたいです。

奉仕の雪かき 気持ちがいい

1年 坂本 紡

これから私の学校生活について紹介します。私のいる第一学院高等学校は、勉強以外にもさまざまな活動をしています。例えば地域の方にお越しいただき、その人の仕事についての特別授業をしてもらったり、地域のボランティアに参加したり、また地域のさまざまな場所に職場見学に行っています。こういう地域を通じた特別な活動を、コミュニティ共育と呼んでいます。

先日、金沢は豪雪となりました。大雪警報が出て、JRの電車も運休となり、学校が三日間休校となりました。その後、金沢市を挙げての雪かきボランティアの除雪作業に、学校として参加することになりました。僕も雪かきボランティアに参加することになりました。

雪は硬くなっており、なかなかスコップで除雪することは難しかったです。しかし、自治会の方や市役所の方から褒められて、何だか良い気持ちになりました。また雪かきボランティアに参加したいです。

福祉学ぶため 県立大めざす

2年 向井 達哉

今、僕には夢があります。その夢とは、県立大に受かるということです。今、僕は十七歳。今年で十八歳になります。つまり僕は今年、高校受験の時から二度目の受験生になります。

最初、僕は進学に対して、そんなに意欲を持っていませんでした。それは特に行きたい大学もなく、これからの自分の未来に「こうしたい」や「ああしたい」という強い希望もなかったからです。

しかし先生と進路のことを話し合う中で、「本当に自分は何がしたいんだろう」と考えました。いろいろと考えている中で、僕の中に変化が起きました。「できたら人の役に立つ勉強がしたい」と考え、「福祉の分野も面白そうだ」と感じるようになりました。そして「できるならば、県立大の福祉のある学科を目指したい」と強く意識するようになりました。

県立大の福祉の学科を目指す。簡単なことではありません。しかしそこに受かることを考えれば、やる気が湧いてきます。頑張ります。

自分を好きに なれるように

1年 小嶋 莉奈

私は、将来まだなりたいというものがありませんが、こんな人になりたいという目標があります。それは恥ずかしがり屋で人の目を気にする人ではなく、人の目を気にしないで堂々と自分に自信を持って生きる人です。

なぜ私がそういう人になりたいかというと、これまで私は自分を出すことができず、いつも周囲の目を気にして生きてきたからです。

そして非常に恥ずかしがり屋で、いつも人の目に緊張してしまい、損や後悔ばかりしてきたからです。

今のこの第一学院高等学校に入ったのも、もう一度自分が生まれ変わって充実した人生を送りたいと思ったからです。たくさん自分のことで悩んだりしてきたことで、私は自分自身のことが嫌いでした。

でもこれからは、自分のことを好きになれるように、少しずつでも自分を変える努力をしていきたいです。そして大人になった時、私は自分自身のことが大好きで、過去の私のことを笑って話せる人間になりたいです。

便利なスマホ 問題点も意識

2年 山本 圭吾

近年スマートフォンという便利な道具の影響で、多くの問題が起きています。スマホの一般的なネット検索機能や、地図機能、連絡関係などの機能だけでも便利なのに、ダウンロードで後から進化するアプリの多種多様な機能により、スマホは便利すぎる道具になったようです。

便利すぎる道具は、人間を駄目にしてしまいます。スマホだけでもネット依存やスマホ依存、さらにスマホのゲームが問題です。課金制度によるお金の大量消費、これらの他にも多くの問題を抱えています。

人間の生活を良くも悪くも大きく変えたスマホという道具は、まさしく、もろ刃の剣であるといえると思います。

そんなスマホを使っている自分たちは、いま一度スマホの使い方について、しっかりと考える時期にきていると思います。世の中のものは、何でもそうだと思いますが、プラス面とマイナス面を、しっかり認識する必要があるからです。とくにスマホはそうだと思います。

投稿の決まり　「発言」の一般原稿は400字前後。「モーニングサロン」は500字前後、「すくらんぶる交差点」は約200字、「ミニコント」は3行以内、イラストははがきで。住所、氏名、年齢、職業（学年）と必ず電話番号を明記し、〒920 8573　北陸中日新聞編集局「発言」係へ。ファクス＝076（233）9696＝や電子メール（hokuchu@chunichi.co.jp）も可。文意を変えない範囲で添削、電子媒体での使用もあります。二重投稿不可。